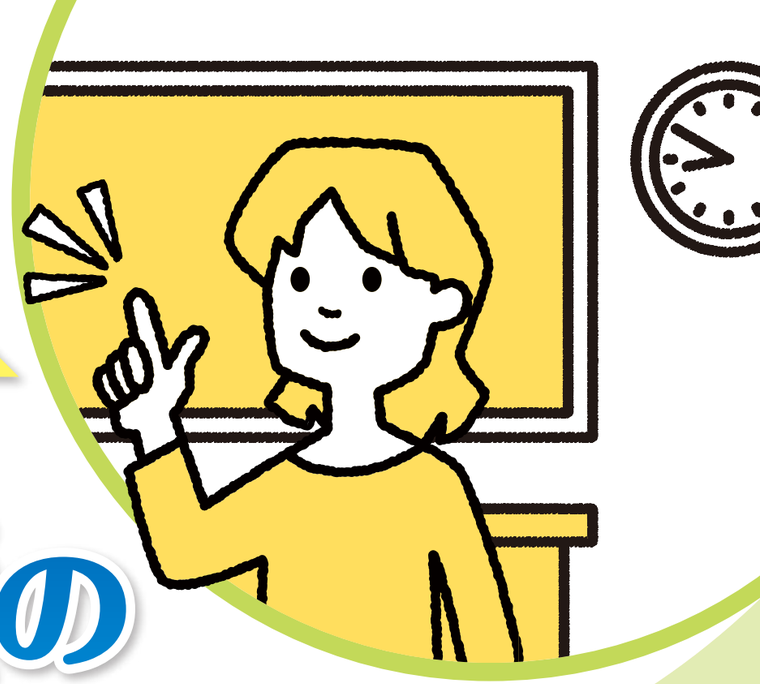
情報通信の
安心安全な
利用のための
標語



学校の取り組み紹介

「情報通信における安心安全推進協議会」では、
総務省、文部科学省、警察庁、法務省後援のもと、
各地域の総合通信局・総合通信事務所、
教育委員会等の皆様と連携し、
子どもたちの「情報モラル」や「ICTリテラシー」を
高めるための取り組みとして、
毎年標語の募集を行っています。

2023年度の総務大臣賞および学校部門入賞校で、当活動に賛同いただいた学校の取り組みを紹介します。

募集案内

2024年度「情報通信の安心安全な利用のための標語」募集

募集期間 2023年12月1日（金）～2024年2月29日（木）

詳細は下記アドレスもしくは二次元コードからご確認ください
https://www.fmmc.or.jp/hyogo/

協議会会員企業・団体名

Apple Japan, Inc.／一般社団法人 安心ネットづくり促進協議会／一般社団法人 インターネットコンテンツ審査監視機構／株式会社インターネットイニシアティブ／NTTグループ／KDDI株式会社／特定非営利活動法人 情報セキュリティ研究所／一般社団法人 情報通信エンジニアリング協会／一般社団法人 情報通信設備協会／一般社団法人 情報通信ネットワーク産業協会／一般社団法人 セーファーインターネット協会／一般社団法人 全国携帯電話販売代理店協会／ソフトバンク株式会社／一般社団法人テレコムサービス協会／一般社団法人電気通信事業者協会／日本電気株式会社／一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会／一般社団法人 日本ケーブルテレビ連盟／一般財団法人 日本データ通信協会／株式会社日立製作所／富士通株式会社／一般財団法人 マルチメディア振興センター／株式会社MIXI／一般社団法人 モバイル・コンテンツ・フォーラム／楽天モバイル株式会社　（五十音順）

後援 総務省／文部科学省／警察庁／法務省

問い合わせ先

〒105-0001　東京都港区虎ノ門二丁目4番1号　虎ノ門ピアザビル4階
一般財団法人マルチメディア振興センター内　情報通信における安心安全推進協議会事務局
TEL：03-6704-5553　FAX：03-3528-8006

e-ネットキャラバン

■入賞標語は「e-ネットキャラバン講座」内でご紹介します

e-ネットキャラバンは「安心・安全なICT（インターネット）利活用」に必要な気づきを広めるための啓発講座です。小学3 年生から高校3 年生ならびにその保護者・教職員を対象に全国で年間約2,500 回開催されています。

【お問い合せ】一般財団法人マルチメディア振興センター　e-ネットキャラバン事務局
TEL：03-6704-5553　Mail：e-netcaravan@fmmc.or.jp

学校法人創成学園　札幌創成高等学校（北海道）　標語作成者：青木 万由子さん

情報コミュニケーションにおける表現方法の活用機会に!

●.●応募のきっかけ●.●

今回標語に応募したのは、本校に届いた「情報通信の安心安全な利用のための標語」の募集告知チラシを見たことがきっかけです。本校では、以前から情報モラル教育の一環として、授業の中に情報コミュニケーションにおける表現方法を取り入れており、そうした活動の延長として標語応募が有意義な機会になると感じ、応募をさせていただきました。

●.●学校での情報モラル教育の取り組み●.●

年に1度、外部講師を招き、全校生徒向けに「SNSの取り扱い」「文字を使ったコミュニケーション」「トラブルに遭わないための使い方」などの情報モラル教育を実施しています。

●.●標語応募にあたって●.●

毎年全校で実施している小論文の書き方に関する授業がベースとなっており、今年度は、生徒に「SNSの利用について」をテーマとした小論文作成に取り組んでもらったことが標語の応募へと繋がっています。標語作成にあたり「標語とはどのようなものか」を学んだ後、実際に標語を作成し、さらに各自が作った標語について生徒同士で論評し合うことで作品の完成度を上げていきました。
結果として、本校の生徒が作成した標語が総務大臣賞を受賞し、また、受賞をきっかけに他の生徒も情報モラルへの関心を深めてくれるなど情報モラル教育の底上げにも繋がったことを強く実感しています。

（学校部門　総務大臣賞）

文京学院大学女子高等学校（東京都）　標語作成者：原田 真緒さん

ものごとの本質や背景を考える機会に!

●.●応募のきっかけ●.●

本校では、10年以上前から「情報通信の標語」への応募を継続して行っており、今年4月のカリキュラム編成時には年間計画に組み込み、授業の中で標語作成に取り組むようになりました。そのため生徒たちも標語の作成や応募に慣れ親しんでおり、今回の応募もスムーズに進みました。

●.●学校での情報モラル教育の取り組み●.●

標語の授業では、生徒たちに過去の作品を見てもらい「面白いと思ったもの」「韻を踏んだもの」「言葉の掛け合いがあるもの」など、それぞれの琴線に響くものを参考にしつつ、自分で思いつくまま書いてもらうことを大切にしています。「どうすれば人の心に残るか（響くか）」といったアドバイスを行い、あとは生徒の発想や創作意欲の赴くまま自由に創作を楽しんでもらいました。創作する作品数も自由で、多い生徒は1人で5、6作品を作り上げていました。
こうした標語授業のベースとなる情報モラル教育ですが、本校では情報活用を授業に取り入れているほか、年に一回、外部講師の方を招き「情報の扱い方」「ネット犯罪」などをテーマとした講演を行っています。

●.●標語応募にあたって●.●

今回の応募では、こちらから押し付けるのではなく、生徒たちの自主性を尊重し、生徒自身がものごとの本質や背景を考えた上で創作に取り組める環境とすることを重視しました。そのため生徒一人ひとりが楽しみながら標語づくりに取り組む様子がとても印象的でしたし、いつもの授業とは違った角度から情報モラルについて考えるよい機会になったと感じています。

（個人部門　総務大臣賞）

北海道幕別清陵高等学校（北海道）　標語作成者：比良野 萌珈さん

「自分事」として考え、「言語化」して発信!

●.●応募のきっかけ●.●

本校では、昨年度より「ICT探究」を1年生の履修科目に取り入れ、情報モラル教育を含めたICT活用をテーマとした探究活動を行っています。
そうしたベースがあった上で、今回、北海道教育委員会より標語の募集要領が届いたことから「情報通信や情報モラルへの興味を高める機会になれば」ということで授業の一環として応募を行うことにしました。

●.●学校での情報モラル教育の取り組み●.●

生徒たちのプライベートなコミュニケーションはもちろん、授業においてもICTを用いる頻度が高まっていることから、「ICT探究」を軸に「ICTの活用スキル」や「情報の取り扱い」などをテーマとした探究活動を行っています。
GIGAスクール構想以降、小中学校の段階から情報端末を取り入れた授業が定着した反面、誹謗中傷を中心に扱いをわかっていない生徒が多いため、前述のICT探求で「ICTの 活用スキル」「情報の取り扱い」について指導しています。

●.●標語応募にあたって●.●

今回は、夏休みの課題として取り組んでもらいました。標語を考える中で「こんなことがあるよね」と、それぞれが自分の生活に落とし込んだり、友達と話し合いをしながら取り組んでいた生徒が多い印象でした。
昨今は、SNSの使い方一つとっても子どもたちだけではなく大人を含め誹謗中傷が社会問題となっていますので、こうした取り組みを通じて「何が課題や問題なのかを考える」さらには「それを自分事として考えてみる」といったことを言語化して発信することはとても意義のあることだと感じています。

（学校部門　北海道総合通信局長賞）

白河市立東北中学校（福島県）　標語作成者：荒井 珈乃さん

生徒・保護者・教員一体での情報活用を!

●.●応募のきっかけ●.●

本校には「メディアコントロールの標語募集に関する実施計画」といったものがあり、そこでの活動が今回の標語応募にいたるきっかけとなっています。
この計画では、東北中学校PTA連絡協議会の中の教養委員会の方々が主体となり「教育講演会」「メディアコントロールの標語募集」「校内での審査」などを行っています。その中に「情報通信の安心安全な利用のための標語」に向けた応募活動があり、生徒たちと一体となり、応募作品の制作を行いました。

●.●学校での情報モラル教育の取り組み●.●

こうした活動の基盤として、本校では情報モラル教育にもとても力を入れています。具体的にはPTA連絡協議会教養委員主催の情報モラル教育をテーマとした教育講演会を授業参観日などに合わせて開催し、生徒と保護者が一緒に安心・安全な情報活用について知識を深めていけるような取り組みを行っています。

●.●標語応募にあたって●.●

夏休みの宿題として、生徒たちだけではなく、任意ではありますが保護者の方々も含めて標語の作成に取り組んでもらいました。
結果として「強い意志　ネットに支配　されないで」という標語が学校部門の東北総合通信局長賞受賞となり、標語を作成した生徒はとても喜んでいました。さらに、仙台での表彰式に家族全員で出席し保護者の方も含め今回の受賞を分かち合うなど、あらためて情報モラル教育の大切さを皆で考える機会が生まれ、非常に実り多い経験となりました。

（学校部門　東北総合通信局長賞）

越前町立糸生小学校（福井県）　標語作成者：樋村 笑衣琉さん

地域全体で情報モラルを考えるきっかけに！

●.●応募のきっかけ●.●

本校赴任以前から標語活動に取り組み続けてきた現校長が、昨年から糸生小学校の校長になったのを機に、児童に標語を作ろうと働きかけたことが応募のきっかけです。

●.●学校での情報モラル教育の取り組み●.●

近年は、GIGAスクール構想により児童全員がタブレットを活用した学習を行っていることから、標語応募をタブレットなど情報端末を使いこなすための一つの手段として活用しつつ、児童の情報モラルの知識や意識を高めることを目的に取り組んでいます。
具体的には、校長からの冬休みの宿題として4、5、6年生に標語作成をお願いし、提出された作品をもとに学校部門、個人部門への応募を行いました。

●.●標語応募にあたって●.●

児童全員が非常に前向きな気持ちで取り組んでくれました。そこには「タブレットをより上手に活用したい、正しく使いたい」という児童の思いがあり、「標語応募に取り組もう」という話をしても誰一人反対することなく各自が意欲的に取り組んでくれました。
結果として、今回の応募では個人部門でPTA関連賞、学校部門で北陸総合通信局長賞を受賞することができました。標語を作成した児童・保護者はもちろん、地域の方々もとても喜んでくださりました。さらにこの受賞により地元新聞2社にも写真つきで掲載され、他校に刺激を与えるきっかけとなりました。地域の方々にこの取り組みを知っていただいたことで、あらためて糸生地区全体で情報モラルについて真剣に考えるきっかけづくりができたと感じています。

（学校部門　北陸総合通信局長賞）

静岡県立掛川特別支援学校 御前崎分校（静岡県）

情報モラルの意識向上、興味喚起への挑戦！

●.●応募のきっかけ●.●

今回の標語応募のきっかけは、県から「情報通信の標語」募集に関する通知をいただいたことでした。本校では、以前より情報モラルの授業を実施しており、その中で「どうしたらもっと生徒たちに情報モラルについて興味を持ってもらえるか」ということを考えていました。そのタイミングで県から標語募集に関する募集要領が届いたので、応募を通じて興味を喚起できるのではないかと考え応募することにしました。

●.●学校での情報モラル教育の取り組み●.●

本校では道徳教育の一環として、外部講師を招き「携帯マナー講座」や「法教育」、「犯罪に巻き込まれないための方法」などをテーマとした講習を催しています。一方で本校は知的障害の生徒が通う学校のため、どうしても学びが断片的となってしまいます。そこで、情報モラル教育で学んだことを日常生活に応用していくことに主眼を置き、「学んだ後にSNS等で実践してみる」といった取り組みや、文部科学省の情報モラルサイトに掲載されている教材や動画を活用した授業なども併せて行っています。

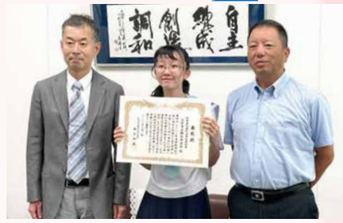
●.●標語応募にあたって●.●

今回の受賞では、総務省東海総合通信局の方に来校いただき表彰式を執り行いました。この受賞により、生徒たちと「みんなで正しい情報活用を行っていこう」という議論を行うようになりましたし、情報モラルの意識向上に非常に有意義な経験になったと感じています。学校全体としても情報や著作権といったことを考えるよい機会になりましたので、今後も継続して標語応募を含めた情報モラル指導の取り組みを行っていきたいと思っています。

（学校部門　東海総合通信局長賞）

大阪市立昭和中学校（大阪府）　標語作成者：北原 瑞己さん

生徒の「主体的に考える力」を育むために！



●.●応募のきっかけ●.●

本校では、以前より他団体が実施している「インターネット等の安心・安全な利用に関する啓発作品の公募」に生徒作品を応募しています。その案内メールの中に標語募集の記載があったことから、「応募してみよう」と思ったことが今回の応募のきっかけになります。

●.●学校での情報モラル教育の取り組み●.●

近年は子どもたちのSNS活用が進み、誹謗中傷や個人情報流出などが大きな問題となっています。また、現在の学習指導要領では「情報活用能力の育成」が言語能力に並ぶものとなっており、国語や社会の各教科だけではなく、さまざまな機会での指導が必要です。「Society5.0」など将来の予測が難しい社会において、情報モラル教育の充実と情報リテラシーの育成に繋がる機会は必要だと思っており、本校では大学教授を講師に招き、毎年異なるテーマで学年別に講演を行っていただいております。

●.●標語応募にあたって●.●

標語への応募は、生徒たちの主体的に物事を考える姿勢を高めてくれるものだと感じています。個人で取り組むことができ、文字数も少ないので誰もが手軽に取り組むことができます。そして全国募集の標語を考えることで必然的に情報モラルを意識したり、情報リテラシーを高めたりできるよい機会になっていると思います。そんな本校の情報モラル教育の成果を確かめる意味でも、今後も標語への応募を続けていきたいと思っています。

（学校部門　近畿総合通信局長賞）

周南市立周陽中学校（山口県）　標語作成者：橋本 陽凪さん

生徒の創造性や表現力向上を目指し！

●.●応募のきっかけ●.●

以前より本校の作文や標語を担当している国語担当教師が「情報通信の安心安全な利用のための標語」の存在を知り、冬休みの宿題として生徒たちに標語作成に取り組んでもらったことが応募に至ったきっかけです。

●.●学校での情報モラル教育の取り組み●.●

本校では、創造性や豊かな表現を育む取り組みを以前から行っています。その一つが、夏休みや冬休みの宿題として作文や標語を生徒たちに作成してもらうことです。また、他には、毎年一回、外部より情報モラル教育担当講師を招き、全校生徒を対象とした情報モラル教室なども実施しています。今回の受賞は、そうした以前からの取り組みにより、生徒たちの表現力が磨かれ情報リテラシーへの意識が高まったことによる結果だと感じています。

●.●標語応募にあたって●.●

今回も冬休みの宿題として生徒たちに標語を作成してもらいました。原稿用紙に何枚も書く作文とは違い、標語は比較的短時間かつ手軽に作成できる点で抵抗感が少なく、生徒たちも意欲的に取り組んでくれました。
近年はGIGAスクール構想の一環として本校の生徒一人ひとりにタブレットが行き渡り、ICT教育はもちろん、それ以外の授業でもなくてはならない学習ツールとして活用されています。標語の作成・応募は、生徒一人ひとりが、あらためて情報モラルや情報リテラシーについて深く考えるよい機会にもなったと感じています。今回の受賞をきっかけに、来年度以降も標語の応募に取り組んでいきたいと思います。

（学校部門　中国総合通信局長賞）

阿久根市立阿久根小学校（鹿児島県）　標語作成者：冨永 明良さん

親子で考え「家族の会話」をONに!

●.●応募のきっかけ●.●

本校では、令和4年度学校保健委員会のテーマとして「スマホを置いて家族の会話をONにしよう」を掲げ、情報機器との付き合い方について取り組みました。親子で考えるきっかけを作りたいと思っていたところ、こちらの「情報通信の安心安全な利用のための標語」があることを知り、本校の取り組みを発信できる良い機会でもあることから応募をさせていただきました。

●.●学校での情報モラル教育の取り組み●.●

学習タブレットを教育活動で活用しているほか、教育課程にプログラミング教育や情報リテラシーなどの年間指導を計画しています。今後より一層重要となる情報モラル教育についても、発達段階に合わせ必要な場面で指導しています。

●.●標語応募にあたって●.●

夏休みの課題として、各家族で情報機器や情報モラルについて考えていただき、作成した標語を応募作品とさせていただきました。

また、長期休業前に「学級PTAを通じての周知活動」「学校保健委員会だよりへの記載」などにより、保護者の方々に対しても今回の応募について知ってもらうことに努めました。作成した標語は「保健室だより」や学級PTAの協議資料に掲載し誰もが読めるようにしたほか、家族や学級での話題にしたことで、皆が情報モラルや情報リテラシーについて考える機会として役立ったと実感しています。

（学校部門　九州総合通信局長賞）

沖縄県立久米島高等学校（沖縄県）　標語作成者：阿部 美楽さん

教科と教科を繋ぐ新しい形の授業を目指し!

●.●応募のきっかけ●.●

学習指導要領が改訂され、情報活用能力の育成が重視されるようになったことで、本校も情報モラル教育を推進する上で新たな視点を取り入れた授業の形を模索していました。そのような中、「情報通信の安心安全な利用のための標語」応募に取り組むことで、「情報×国語」のような教科と教科を繋ぐ新しい形の授業を実践できるのではないかと感じたことが応募のきっかけです。

●.●学校での情報モラル教育の取り組み●.●

本校では、日頃から情報モラルに関連した時事問題を授業の中で取り入れています。インターネットやSNSとの正しい関わり方を生徒たちに考えてもらう時間を設けているほか、3学期に授業の総まとめおよび振り返りとして、情報活用に関するトラブル事例などを参考に授業内で標語の作成に取り組んでいます。

●.●標語応募にあたって●.●

当初は、標語を難しいものと捉えてしまう生徒が多くいました。そこで街中にある交通安全の標語などを情報モラルに置き換えて考えるよう促すとともに、小学生にも伝わる視点での制作をアドバイスすることで生徒たちも楽しみながら意欲的に取り組んでくれました。それが今回の学校部門受賞という結果に結びついたのだと思います。今回の標語応募では、過去の作品や関連するワードについて調べることで、生徒一人ひとりが善悪の判断や危険性などについて考えるよい機会になったと感じています。

（学校部門　沖縄総合通信事務所長賞）

入賞作品（2023年度）

＜学校部門＞

◆総務大臣賞

盛れた写真　あなたの情報　漏れてない?
学校法人創成学園　札幌創成高等学校　北海道

◆総務省各総合通信局長賞

☆北海道総合通信局
ネットでは　クリック１つも　命取り
北海道幕別清陵高等学校　北海道

☆東北総合通信局
強い意志　ネットに支配　されないで
福島県白河市立東北中学校　福島県

☆関東総合通信局
炎上の用心　動画一本　火事のもと
東京都立美原高等学校　東京都

☆信越総合通信局
大丈夫?　見えない相手は　要注意
佐久市立切原小学校　長野県

☆北陸総合通信局
じょうだんの　その一押しで　変わる世界
越前町立糸生小学校　福井県

☆東海総合通信局
守ろうよ　ネットの決まり　人権も
静岡県立掛川特別支援学校御前崎分校　静岡県

☆近畿総合通信局
「知らんけど」　その言葉では　取り消せない
大阪市立昭和中学校　大阪府

☆中国総合通信局
思いやり　リアルもネットも　変わらない
周南市立周陽中学校　山口県

☆四国総合通信局
気をつけよう　相手がいやがる　メッセージ
阿南市立山口小学校　徳島県

☆九州総合通信局
語ろうか　ネットの人より　その場の人と
阿久根市立阿久根小学校　鹿児島県

☆沖縄総合通信事務所
消せないよ　心の傷も　投稿も
沖縄県立久米島高等学校　沖縄県

＜個人部門＞

◆総務大臣賞

バズるより　社会のルールを　重んずる
原田 真緒（はらだ まお）さん　東京都　文京学院大学女子高等学校

◆協議会長賞

☆児童部門
スマートフォン　ながら歩きが　命取り
大井 綾華（おおい あやか）さん　東京都　調布市立上ノ原小学校

☆生徒部門
そのスマホ　便利も危険も　君の手に
河合 祐貴子（かわい ゆきこ）さん　愛知県　名古屋市立名塚中学校（応募時）

☆一般部門
無料でも　大事な時間を　払ってる
安藤 恵理（あんどう えり）さん　兵庫県

◆PTA関連賞

☆日本PTA賞
スマホより　リアルのイイね　探そうよ!
諸田 和真（もろた かずま）さん　神奈川県　秦野市立南小学校

真か偽か　情報見極め　騙されない
森 夏希（もり なつき）さん　東京都　慶應義塾中等部

☆全国高P連賞
人生にも　ネットにもない　リセットボタン
徳田 凌（とくだ りょう）さん　北海道　市立札幌開成中等教育学校

☆全附P連賞
「ありがとう」　ネットの中でも　思いやり
渡邉 芽（わたなべ めい）さん　福井県　越前町立糸生小学校（応募時）

◆ ネット社会の健全な発展部会特別賞

☆児童生徒部門
SNS　クリック一つで　加害者に
塩月 芹歩（しおつき せりあ）さん　兵庫県　神戸学院大学附属中学校

☆一般部門
間違いだ　誰かを叩く　正義感
近藤 緑（こんどう みどり）さん　埼玉県

◆ 企業優秀賞

☆NTTグループ賞
スマホ画面　見ながら歩くと　見えない危険
金子 雄介（かねこ ゆうすけ）さん　埼玉県　吉川市立中央中学校

☆KDDI賞
しまったと 送って気づく その言葉
岡村 泉希（おかむら みずき）さん　茨城県　東海村立中丸小学校（応募時）

☆ソフトバンク賞
ネットでも　フィルタリングで　戸締まりを
石原 由唯（いしはら ゆい）さん　沖縄県　那覇市立寄宮中学校

☆楽天モバイル賞
身につけよう　情報モラルで　楽しいネット
橋倉 慶（はしくら けい）さん　長野県　松本工業高等学校